

げにくちひろくば、八つもたて申候、それも中にかひのる候はんほどを御らんじて、あはせ候べし、ちいさきは十六もたて候はんにせぬ事にて候、いだし候事はちとさがりたるやくなりす、まずまんまやくせぬ事にて候、さていだし候へとある時、かひを手のうちにもちて出すべし、うへとある人の御かたへ、かしらをむけて出すべし、うへに御あはせ候はんほど、まぢまいらせて出すべし、また下の人おほひ候は、やがて出し候べし、上をまたせ申さぬ事にて候、めしつかふ人にも御をしへ候へ、みやづかひのひとまつけ候はねば、御うへにものをまろしめさぬになり候べし。

〔宣胤卿記〕長享三年八月九日乙未、今日自中山黄門貝歌事所望書様事、一條亞相返事如此、但貝事、左右各一首書之、贈答歌書之間、贈ヲ右ニ答ヲ左ニ所書也、古今戀歌書之。

〔嫁入記〕一御物行やうのまだい

一ばん 御貝桶略○中

一おいかいおけの事、角口のひろさ九寸三四分、たかさ九寸以上、四所にかつらを可入、二すぢづつならべて、そこきはに一ところ、ふたと身とのあはせめに一所中ほどに一所、ふたのまはりとかうのいたのさかいに一ところなり、みのかたにのみいれをするなり、かみにて上をよくはりてゑをかくべし、ゑにはげんじのところ、また松竹などまかるべし、ふたにつるかめなど二ツづつむかひ合候てまかるべし、あしはつかぬものなり、

一かひのかずは三百六十なり

〔貞丈雜記十六諸結〕一今世間に貝桶の結は鬼結と云むすび様有と云人あり、鬼むすびと云事古傳になし、貝桶の結やうの事も包結記にまろし置く也、

〔運歩色葉集賀〕貝掩カキアツ